

令和8年度地域教育行政懇談会の開催結果の概要について

【地域教育行政懇談会】

1. 議題

- (1) 教育施策全般（県教育委員会の事務の管理・執行の状況の点検・評価）
- (2) 次期香川県教育基本計画の策定に向けた施策の方向性について
- (3) 学校と家庭・地域とのより良い関係づくりについて

2. 日程・出席者

(敬称略)

地域 日程	地域の教育関係者等	
	氏名	役職
丸亀・坂綾 7月15日(水) 13:00～14:30	金澤 泰宏	丸亀市PTA連絡協議会会長
	徳永 秀文	丸亀市教育会事務局長
	富家 誠	坂出市PTA連絡協議会会長
	福由 理絵	宇多津北小学校PTA副会長
	齋藤 沙知恵	宇多津中学校PTA副会長
	福家 裕子	綾川町PTA連絡協議会会長
高松・東讃・小豆 7月29日(水) 13:00～14:45	太田 健治郎	高松市PTA連絡協議会会長
	向井 富美代	高松市子ども会育成連絡協議会会長
	大山 強	さぬき市PTA連絡協議会会長
	永峰 智恵	さぬき市PTA連絡協議会理事
	川西 一輝	東かがわ市PTA連絡協議会副会長
	石川 雅志	土庄町PTA連絡協議会会長
	望月 章司	土庄中学校PTA副会長
	坂口 武史	小豆島中学校PTA会長
	武田 珠恵	白山小学校学校運営協議会会長
	米谷 利彦	直島中学校校長
	大洞 洋児	直島中学校PTA会長
仲善・三観 7月30日(木) 13:00～14:30	山本 明男	元小学校長
	中川 皓二	善通寺市PTA連合会会長
	岡田 美千代	観音寺市PTA連絡協議会会長
	大平 真	観音寺市PTA連絡協議会副会長
	小林 千芳	三豊市教育委員会事務事業点検・評価員
	山下 美樹	象郷小学校PTA会長
	小野 友紀子	多度津町PTA連絡協議会会長
	藤田 敬司	まんのう町少年育成センター所長
	楠原 圭二	仲南こども園PTA副会長

3. 意見の概要

教育施策全般（県教育委員会の事務の管理・執行の状況の点検・評価）

- 交通安全教育について、昨年度から 16 歳以上の自転車運転等の法律が整備されている。項目数が多く、法規上の話であり、子どもたちにとっても親としても分かりにくい面があるため、子どもたちに不利益になってしまうことに関しては、学校で中学生や高校生に教えていただきたい。
- 「学校に行くのは楽しいですか？」という質問の結果が載っているが、「学校が楽しいですか？」と聞くより「学校に行くのが楽しいですか？」と聞くほうが肯定的に答える割合が小さくなる傾向がある。質問する側は同じような意味合いで質問しているが、受け取る側では「学校は楽しいけれども、楽しい学校に行くのに少し抵抗がある」と思っている部分が多少あるのではないか。
- 中学校入学後の 4 月やゴールデンウィーク明けの事故がとても多い。できることなら中学校に入学する直前の時期にもう 1 度自転車の指導をしていただければとても助かる。
- 子どもたちがスポーツをできる環境についていろいろ取り組んでくれているが、吹奏楽部などの文化系の部活に対しては、そういったサポートをそんなに重点的にはしてくれていないのかなという印象を受けた。
- スポーツができる環境づくりという点で、子どもたちが放課後や休みの日に徒歩や自転車で遊びに行ける場所がなかなかない。子どもたちが校区内で歩いて行けて、体を動かせる場所をもう少し増やしていただけたら。
- 高校生がヘルメットを購入する際の補助金を活用させていただいたが、購入できるタイミングが遅いかなと思う。新年度準備の時期に購入できれば、中学校のように新入学時に統一してヘルメットをかぶれると思う。
- A 評価になっている指標について、令和 8 年度の目標設定が令和 7 年度の実績より低くなっているものが見受けられる。目標設定のところはいろいろな基準があると思うが、達成できたからこれでよかったではなく、もっといろいろなやり方があるのではないかというところをどんどん検討していただきたい。
- 家庭教育で親の力を育てるということにもっともっと力を入れていただけたらと思っている。特に幼稚園であれば送り迎えで保護者の交流ができていますが、保育所では懇親の機会が減ってくる。
- 最近、小・中学校で特別支援の教育を必要としている子どもがすごく増えているし、特別支援学校でも教室やスクールバスが足りておらず、運動場や実習棟もすごく狭い。特別な支援が必要な子どもたちに対する取組みにも力を入れていただきたい。
- 投資関係に興味がある子がちらほらいる。やはりお金は大事なので、どうやって自分の生活を守るかを知っておいて損はないのかなと思う。メリット・デメリットなどしっかりした内容を小さい時に覚えておくというのもありなのではないかと思う。
- スポ少などの団体に入れていない子どもたちを拾っていくのが子ども会だと思っている。学校教育としての施策もすごく大事だと思うが、並行して、地域としては子ども会にもっと力を入れたいし、学校や教育現場からもお手伝いをいただきたいと思っている。
- 投資に関する教育について、自分の身は自分で守らなければいけないという世の中になっているのはなぜなのかということを教える側面もないと、道徳的な面や郷土を愛するといった面からも離れていき、ある意味逆のほうに偏ってしまうような気がする。そういうところも踏まえて、考えていってほしい。

- 今は夏休みの宿題のサマーワークがなく、タブレットの中に入っているものをやる。働き方改革の一端になっているのだなと感じた。浮いた時間というのは適切な表現ではないかもしれないが、先生方には、その時間をぜひ授業準備にしっかり使ってほしい。
- 総体や新人戦、普段の練習試合を夕方から夜間にできるように、ナイター設備の補助やグラウンドの使用料の減免を考えていただけたら、子どもたちの熱中症対策にもなるし、競技力の向上にも今後つながっていくのではないかな。
- スマホの活用はここ2、3年で非常に進んでいる。そういった利用状況が点検評価の中に出てきていいのではないかなと思う。また、スマホの活用状況に応じて、各行政の部門でもホームページをしっかりと更新していく、あるいはスマホでの申し込みをどんどん受け付けていく流れを作る必要がある。
- メディアの使い方は使用時間もとても大事だと思っている。時代も進み、親もついていけない時代になっているので、親も一緒に学びながら、子どもの生活リズムを整えていかないと難しい。親も子も学ぶ場があればとてもいいと思う。
- 学校間でネットやタブレットの使い方に格差があるのかなという印象を受けた。もちろん学校の方針や県の方針、教員の技術などあると思うが、どこの学校に行っても同じように活用されているのが望ましいのではないかな。
- 読書について、授業や学校で推進していくのは大事だが、子どもにはまずは楽しい部分を強調していったほうがいいのではないかなと思うし、愛媛県川之江市では読書をしてポイントを貯めていくという子どもが楽しくなる制度を設けているところもあるので、そういうことも取り入れていったらいいのではないかなと思う。

次期香川県教育基本計画の策定に向けた施策の方向性について

- 読書活動についての結果を見ていたら、なかなか子どもたちは読書に向き合えていない。スポーツ少年団や塾の時間が長く、子どもたちに時間的余裕がない中で読書活動は難しいような気がしているので、もう少し幅広く子どもたちを取り巻く環境全体を見て考えてほしい。
- 子どもたちがネットやゲーム、スマホ、SNSに触れ合う時間が一向に減らず、まだ増加傾向にある。今まで以上に子どもたちへの働きかけや、その子どもたちに機具を買い与えている保護者への啓蒙をしていかなければ、なかなか改善の方向に向かわないのかなと思っている。
- 基本方針4の最後に“生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境づくりとスポーツによる地域活性化”とあるが、子どもが中学校の吹奏楽部でOBと関わることでとてもいい経験ができた。よければここに吹奏楽も入れてもらえたらとてもうれしい。
- 子どもの成績について悩んでいるが、小学校3～4年生になると学習内容が難しくなってくる。塾の先生の力を借りずとも先生がそれなりの学力に持ち上げてほしい。宿題が出せていない子どもや学習でつまづいてしまった子どものフォローを学校の先生がもう少しがんばってほしい。
- 学校における働き方改革について、地域や保護者に向けて、これだけは家庭でやってほしい、これは地域でやってほしいということを明確に伝えていただければ。教育委員会や学校の名前で出づらいいということであれば、PTAの名前で出すと保護者窓口ということに対応できるかなと思っている。

- 県教育委員会としては、香川県で学んで、世界に羽ばたいて都会などに行くような人材を育てていきたいのか、Uターン就職などで戻ってくる人材を育てていきたいのか。
- 子どもたちの心理的安全性が確保されなければ、学力の向上も、子どもたちが本当に生き生きと学校生活を過ごすこともできないというところで、中心に据えて考えて、施策の中に反映していただければいいかなと思っている。
- もう少しシンプルに、これをしっかり押さえてほしいというところを打ち出していただけたら、若い先生方もやりがいを持って、いろいろな諸課題に向かっていけるのではないかな。
- 愛着形成ができる大人と出会えるような仕組みは、学校だけではなかなか非常に難しくなっている。子どもたちが体験活動をする場の確保がすごく大事になってくると思う。ぜひとも地域や家庭と連携しながら取り組みたい。
- 現場の教員が福祉や医療の方と協働することで不登校の子どもたちが回復しているということを実感できるような、そういう医療・福祉・教育との連携というところを県の教育委員会の施策の中でも織り込んでいただきたい。
- 「デジタル社会を主体的に生きる力の育成」がすごくいいなと感じた。何をもってこの目標の達成状況を見ていくのかということになるが、それは ICT を使うのが良いとか、どんどん使おうということではなく、効果的に使う点で評価をしてもらいたいと思う。
- 教職に対するマイナスイメージによって志望者が減っているが、現場の先生方に教育職の魅力を蘇らせてもらいたいと思っている。働き方改革について、これまでは年次休暇を先生方がどれだけ取っているかという評価だったが、できれば教職に対する魅力をどう感じ取っているかで点検をしてもらいたい。
- 小学校の時から身近なところをよく知って、ここが一番と思える子どもたちが増えると、何とかして残りたいから残れるような会社を作ろうとか、残れるような学校を作ってもらおうとか、そういう力にもなってくると思う。そのため、郷土教育に力を入れるのは、すごくいい方針だと思った。
- 担任の先生にもう少し時間を作ってもらい、子どもたちに教えるだけでなく、関わる時間が持てるように、先生をサポートする人を増やす取組みも考えてもらえたらいいと思う。

学校と家庭・地域とのより良い関係づくりについて

- 子どもたち、先生たちを守るための環境整備には賛成だ。
- お金を払っているのだから当然だという、お店とお客のような関係で学校とも関わろうとしてしまう保護者が多いのかなと思っている。保護者たちにどうやってそれを学んでいってもらえるかというところが課題なのかなと思っている。今の保護者は、学校や私生活のことに関してお互いをリスペクトする心が薄れており、そこがすごく気になっている。
- 電話が30分から数時間に及ぶことが多いことなど、先生たちはすごく大変だなと思っている。大人になって子どもを育てるようになり、子どものことが大事だから過敏になるところはあるのだが、行き過ぎた親がすごく多いなという印象を受けることが多くなった。
- 先生方を守るためのガイドラインもとてもいいなと思った。PTAをやっていると、校長先生や教頭先生など、たくさんの先生に支えられながら活動させていただいているが、先生方は夜遅くまで仕事してくれている印象があるのでとても大変だろうと思う。

- 先生と親、また生徒と親、生徒と先生という信頼関係が必要なのではないかなというふうに思っている。こういうガイドラインの策定はいいことかなと思っている。
- いじめ事案に対して、PTAには学校から報告があるだけで介入はしないでほしいということであった。PTAでもそういった子どもたちのトラブルがあった時に何か協力できるような構図があればと思う。
- 地域の方や保護者の方がたくさんコミュニティスクールの活動に参加することによって、先生方とも仲良くなるし、学校の取組みや子どもたちのこともわかるので、先生方や学校に対する不当な行為が減ってくるのではないかなと思っている。
- 子どもたちにはしてはいけないこと、言ってはいけないことを指導する際、パワハラにならない指導の仕方を考えるため、時差が生まれる。本来、その場ですぐに言うべきだし、間違っているなら直すべき。先生方は皆同じような考えではないかと思うが、言いたいことが言えない、言いにくい。そういうことの積み重ねで教員としての魅力を感じないというところにつながっていくのではないか。子どもたちとの距離を縮め、子どもたちに寄り添える環境づくりを考えてほしい。
- 個を尊重しすぎると、保護者側も言い過ぎるところも出てくる。全体と個のバランスがすごく大事だと思うので、学校側を守るという観点だけではなく、個性を伸ばすという観点を残しながら検討いただければすごくいいと思う。